

# 大雪カントリーサロン

## 大雪山の見える暮らし。移住した人、したい人。

### 北国の春

旭川市西神楽

梅谷俊一郎

北国の春は遅い。美瑛に近い我が家の森から雪が消えるのは四月下旬である。

しかし、雪解けと同時に春爛漫となる。冬枯れの森は春の訪れと共に小鳥の囀りで満ち溢れ、雪が消えると同時にナニワズ、カタクリ、エゾエンゴサク、フクジュソウなどの早咲き組がすでに花をつけている。こうした植物は林の木々が葉を茂らせるまえに、林床で一杯に日光を浴びて、花を咲か

せ、実をつけて、カタクリのように他の植物と入れ違いに葉を落として寝てしまうものもある。春が深まるにつれて、それらに続いてオオバナエンレイソウ、オオウバユリ、ヒトリシズカ、スズラン、野生のスミレ、ヤチブキ、ミズバショウ、ザゼンソウ、ツルアジサイなどなど、順番に花を咲かせる。野生のランも見られる。園芸種を見慣れた目にはこれらの野の花は清楚で、可憐で、実に美しい。いまだ葉をつけない林をバックに一本のサクラが咲き誇る様子は、かけがえのない美しさだ。

大雪山系の濃いブルーの地に白く刷毛で掃いたような雪が次第に消え行く頃、ここ北部北海道にも夏が近づいてくる。

### 北海道のサクラ

日本の春はサクラの開花と共にやってきます。桜前線が北上し、長い間、雪に閉ざされていた北国にも、待ちに待った春がようやく訪れます。街や自然をおおっていた白い雪が徐々に姿を消し、やがて街から平野へ、そして丘から山へと緑が広がる、新緑に萌えるときを迎えます。雪の下でじっと春のくるのを待っていたフクジュソウやカタクリ・エゾエンゴサク・エゾイチゲなどが次々と花開きサクラの芽も膨らんできます。麗らかな春に麗らかに咲き春の訪れを告げる花、これがサクラです。花見といえばサクラであるように、北海道のサクラは本格的な春の訪れを告げ、一斉に農作業が始まるのです。

(財) 日本さくらの会

石川 敏雄



カタクリとエゾエンゴサク



カタクリの開花



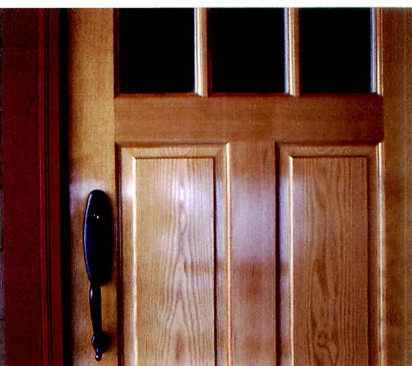
浦河のオオヤマザクラ



チシマザクラ(二十間道路)



カスミザクラ(旭山動物園)



# 私のカントリーライフ

## 東川町 豊島 琴恵

### 栄養士のお店出来ました。

antenna kitchen  cot cot+

アンテナキッチン コトコト

このたび、旭川大学女子短期大学豊島ゼミの卒業生が中心となり、栄養バランスの整った献立で、お客さまの健康をサポートさせていただくお店をオープンいたしました。食材は、地元の農家の方々による安心・新鮮な素材です！食材や栄養の情報を常に発信～大雪の恵みをメニュー



を通しておとどけたいです。

旭川市曙1条2丁目  
キャピタルホテル1階  
営業日/月・火・金・土  
AM11:30~PM2:00

主菜はセレクト式。デザートも含め総力ローがわかります。

私が旭川市内から東川町に移り住んだ理由は、朝目が覚めてカーテンを開けると、目の前に大雪山の絶景が一望できる暮らしを手に入れたと思うようになったから。自給自足的天然生活へのこだわりがあったとか、自然に寄り添う一人静かな暮らしへの強い憧れを持っていたからではない。それだから自分がカントリーライフを過ごしている意識はまったくなくて、それどころかカントリーライフがいかなるものか正直ピンときていない。ただ、念願の山を眺めて暮らす楽しみを手に入れたことで、季節の移ろいにこれまで以上敏感になれた。花のこと、水のこと、食べもののこと・・・と次々関心ごとが広がっていった。また、時間と空間を共用しようと、よくヒトが訪ねてきてくれるようになった。そして、これまで意識したことのない「暮らす」という感覚を自分の中に発見し、嬉しく思えた。私にとってカントリーライフとは、生活する上で必要なモノや起こるコトを創造し、関わるヒトとの出会いによって刺激され、より生活が楽しく彩られていくこと。またそれを感動できることなのだろう。

## 大雪山の恵み

### 山菜をいただく。

旭川市 長谷川 寛治

大雪の恵は雪解けとともにやってくる。ここでは数ある山菜の中から代表的で美味しいものを紹介しよう。



ぎょうじや  
にんにく



えぞのりゅうきんか



うど



こごみ



まず4月になるとギョウジャニンニクが日当たりの良い山の斜面に顔を出す。卵と同じにも良し、ジーンクスカン鍋に入れるも良し。特有の臭いはあるが食べやすく昔から強壯剤として知られ、栄養価が高い。同じ頃エゾノリュウキンカが湿地帯のいたる所に黄色い可憐な花を咲かす。茎を御浸し等にするとおいしい。自然のながみが春を感じさせてくれる。

5月になると山菜の王様と呼ばれるタラの芽が出てくる。てんぷらにすると絶品である。そしてウド、フキ、ワラビ、タケノコと6月まで山菜が楽しめる。塩漬けにして一年分保存食としている家庭もある。

ウドは採れたてを食べたい。あくも少なく生でサラダに、茹でて酢味噌和えに、そして皮はキンピラにと本当に美味しい。キンピラは皮を厚めに剥き短冊に切りサラダ油でサッと炒め、砂糖、酒、醤油で味付けし最後に胡椒や一味等好みの香辛料を振りかけゴマ油をたらして出来上がり。シャキシャキした歯ごたえがたまらなく酒の肴にお勧めだ。是非作ってみてほしい。

その他にも山ワサビが美味しい。すりおろして温かいご飯にかけてる、冷奴の薬味にする、山海漬けにする、どれも美味しい。休日は山菜採りに夢中になり、それを自分で料理して食べる。この醍醐味は経験した人にしかわからない。



たけのこ



やまわさび



よもぎ



えぞいらくき



ふき

# 最初の花を探しに

旭岳ビジターセンター  
田上 千尋

大雪山の山麓・旭岳温泉の雪融けが進む5月、小川のほとりに春の使者が現れます。春一番に花を咲かせるエゾノリュウキンカ。北海道では、「ヤチブキ」の呼び名で親しまれていま

半年も続く長い冬の間、あたりの森はモノトーンの絵画の世界になります。エゾマツの黒い輪郭と枝に積もる雪、薄い色のダケカンバの樹皮、見上げる白い稜線と雪雲…。そんな世界で暮らした後に見る、鮮やかな山吹色の花は本当に眩しく思えます。だから1m以上の残雪を踏んで、何処よりも早く咲く場所

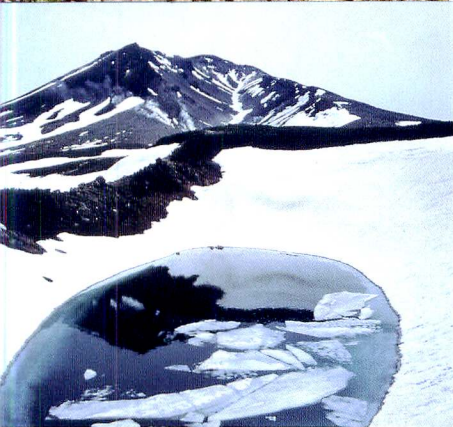
を見つけに行くのです。雪融けの流れに沿って咲く姿に出会った時は、毎年のことなのに心の中で歓声を上げずにはいられません。

でもスキー好きの山仲間には「この花を見ると、雪が消えることを考えて、少しさびしい…」とのこと。人の思いは様々ですが、季節の変化を教えてくれる花であることは間違いないようです。

今年の春は旭岳温泉で最初の花を探してみませんか？春ですが「大雪」山なので、まだ雪や寒さへの対策はぬかりなく…。



旭川市出身。高校卒業まで過ごす。大学進学後は植物生態学を専攻、都会、山、海外などで暮らすも、北海道のよさに気づきUターン。2002年から旭岳ビジターセンター勤務。



## 「新規就農」 田舎に暮らして

西神楽 上村 美智子

昨年の夏、植生調査に参加しました。私の住む地域は自然に恵まれた純農村で、一帯は草花や昆虫の宝庫です。住んでいる人には雑草と言われ、それが研究者から名前や特徴を教わり「見事な群落だ」「これは貴重な発見」「絶滅危惧種」と教えられて再認識です。

温暖な本州生まれの私は、北海道の野の花の美しさに感銘を受け、大好きになりました。今回も道端に楚々と咲く小さなウベニツメクサや、青草の中の輝草連玉(クサレダマ)を見つけ、可愛くて前に進めません。見上げる程の草丈の先に紫色小花が長穂状に咲く麗しいクガイソウは極みです。でも、こうした天然の美風光も、放っておいたら時の流れの中で消えていくでしょう。ほんとうに農村の風景は残していきたいものです。

私の家はサラリーマン家庭でした。ある日曜日、山里にドライブして丘陵より望むのどかな景色に出会い「こんな所に住みたいなあ」…。そして脱サラをし、この集落に移住して新規参入の農業経営を始めました。

新規集農は山あり谷あり。それでも今こうして、土と共に生きています。あれから三十数年。振り返れば、あっぱれ！とても満たされています。

折り折り、農業人生をカメラに収め、貧農ながら経営の苦楽を記録して来ました。今、美しいものを美しいと思えるのも、この豊かな自然に恵まれた地に移り住んだからだと思います。田舎暮らしで培った魂だと思えます。皆さん、田舎に来てみませんか！！



# 私の移住顛末記

旭川市 緑が丘在住

斉藤 信義・良子



東京生まれ東京育ちのワイフが決めた「旭川へのUターン」だと言っても誰も信用しないので、その辺りから説明させてもらおう。

直接の理由は、田舎で独り暮らしをするお袋とワイフの間でそれとなく進んでいた私を帰郷させる計画。定年後は東京圏以外での生活を考えていたが、帰郷するとは思っても居なかった。それがなぜ旭川になったか、毎年の帰省時に出会う旭川の風景(自然)が気に入っていたのと、空港があり東京との交通の便が良く、北海道第二の都市で生活環境が整っていることと土地の価格も魅力だったからだ。

出来れば、緑に囲まれた市街地に住もうと思っていたが、街中は思いのほか緑が少なく空気も淀んでいて潤いがなかった。出張で立ち寄った夏、上川神社の森と旭川医大を結ぶ神楽岡通りに近い開発中の宅地で手頃な土地を見つけて帰京、その土地を予約し現地を見て即決したのがワイフである。定年にはまだ5年ほど間のある初夏だった。

「定年を期に移住する」と会社に申し出たが、あと5年は、と社長から留意され「移住など嘘だろう」と、他社への転身を疑われる始末。当分の間、旭川と羽田を往復勤務する約束でやっと移住することが出来た。

家の建築も、東京近郊のモデルハウス通いでスウェーデンハウスを相手に交渉。設計、見積もりの後に札幌支店(現地)で契約した。

平成8年の10月新居に移り、15戸ほどのニュータウンの住民としてスタートした。生まれて初めての雪国暮らし、私の留守中に降る大雪に戸惑いながらのワイフ、東京と旭川の往復勤務に疲れた私。1年後正式に退職し、この地域の住民としてのライフが始まった。

それから10年、観光ボランティア、町内会長、地区社協の会長、市民委員会の役員などを経て、現在は市民団体の事務局長。思いがけない展開の定年後のライフは、多少の紆余曲折があったが、あつという間の歳月だった。

移住と言えるかどうか、疑問を持ちながら歩いて来た道。旭川への移住者の参考になればと、ヤフーブログ「体感・旭川から」を開設している。



## 暮らし 暮い袋 国まは恵 北住知

「家は夏を旨として・・・」というのが古来からの住まいに對する考え方ですが、北海道ではこれを正反対にして「冬を旨として」すべてを考えます。近頃は地球温暖化の影響が暖冬傾向ですが、それでも本州に比べ厳しい寒さがあるのは事実。中古の家に住むにしろ、新しく建てるにしろ、省エネルギーへの配慮は絶対条件と考えましょう。

雪への備えもあります。敷地内の堆雪、除雪、排雪の計画などです。その点、郊外の敷地は広いので(除雪機で)飛ばせばオシマイ。楽だったりします。敷地全体の排水の良さも重要で周辺の雪解け水がどこへ行くのか雪解けの頃よく観察しましょう。

家庭菜園やガーデニングを

楽しみながら暮らしてみたいという方は、間取りを考えるとき、リビングルームよりバックヤードの計画を入念にする事をお勧めします。街で暮らしている時より、長靴を履いて、日よけ帽子と作業手袋・・・という時間が圧倒的に多くなるのがカントリーライフ。収穫や処理、コンポストや道具の収納など、合理的に作業が出来るよう計画しましょう。

カントリーライフが楽しくなるか辛くなるか、すべては周到な計画と無理をしない事、とは地元の大先輩からよく聞く事です。そのためにもお試し移住という考え方もとても良い方法だと思います。

二級建築士 村上 京子

## 編集後記

春らしい紙面になったでしょうか？山にはまだ雪がたくさん残っている北海道はこれからが花の季節。集まった原稿も花の話題でいっぱいでした。毎年のことですが、ぼかぼかした土の匂いを吸い込みながら、めぐってくる季節のエンタテイメントを今年も愉しみにしています。 村上

季刊 大雪カントリーサロン  
春号  
平成19年4月30日発行

発行元・編集・大雪カントリーライフ研究会  
事務局/〒078-8232 旭川市豊岡2条3丁目4-1  
長谷川 寛治: kanji@potato.hokkai.net